

2021年度  
八戸学院大学  
地域経営学部 地域経営学科  
学校推薦型選抜（I期）

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

次の文章を読んで、以下の2点を答えなさい。

1. なぜ、ダイバーシティが良いとされているのか、200字以内で述べよ。
2. ダイバーシティを推進するためには、どのようなコミュニケーションの在り方が良いか自身の考えを400字以内で述べよ。

最近、さんざんもてはやされている言葉に「ダイバーシティ」(多様性)があります。こうした耳にする機会の多い言葉こそ、冷静にその意味を考えなければいけません。

多様性とは、肌の色、宗教、性の違いに配慮しろ、ということではありません。むしろ同じ肌の色なら同じ考え方をするはずだ、という考え方こそ危険です。本質的に一人一人が異なる価値観を持って生きることが許される企業(社会)にすることが多様性です。

一人一人の価値観が違う。当然のことがなぜ、問題となるのか。それは、皆が同じ価値観を共有している「収斂(しゅうれん)」のほうが、概して経営業績は良くなるからです。

顧客トラブルが起こったとしましょう。多様な価値観を持つ人々からは多様な意見が出ます。現場の訓練が甘いという人もいれば、設備の問題を唱える人もいます。顧客への説明不足だと考える人もいるでしょう。そうした多様な視点が、組織に新しいアイデアをもたらすのは事実です。

これに対し、皆の価値観がそろっていれば、いち早く会社としての方針を共有でき、全員で一丸になって会社のビジョンに沿った方向性で問題解決を図れます。効率性という観点では、価値観が同一である方が優れているのです。20世紀の日本企業も、このチーム一丸の力で課題を解決し、成長を享受してきました。

それでもなお、多様性が声高に叫ばれるのは、「企業の中にいる限り、同じ考え方ができなければいけない」という同調圧力が、人々の働きづらさ(生きづらさ)につながるためです。個人の気持ちを封殺し、企業としての考え方に従わせるのでは、人々のパフォーマンスは上がりません。

この多様性と収斂のジレンマを克服するには、一回り高いレベルで組織の価値観をそろえることが求められます。つべこべ言わずに企業の考え方を受け入れろ、ではありません。異なる価値観を持つ独立した個人が、個の信念のもとに企業の価値観を受け入れ、団結する。そのとき、豊かな多様性と企業理念への収斂が共存する「個も組織も強い」状態が達成されます。

## 参考文献

『日本経済新聞』

「やさしい経済学—不易流行の経営学(3) 「多様性」が重要な理由—」

2020年8月12日